第５回鶴岡市総合計画審議会　企画専門委員会　会議概要

○ 日　　時　令和5年12月25日（月）　午後3時00分から午後4時40分まで
○ 場　　所　鶴岡市役所6階大会議室
○ 出 席 者　別紙委員名簿のとおり（委員14名中8名出席）
　出席委員　浅野憲周委員、市川至音委員、鎌田剛委員、平智委員、森木三穂委員、屋代高志委員、清野康子委員、瀬尾利加子委員、鈴木淳士委員、高谷時彦委員、大和匡輔委員
　欠席委員　安達忠士委員、菅原剛委員、クランプアレクシス委員
○ 傍 聴 者　１人
○ 報　　告　⑴　第３回鶴岡市総合計画審議会の会議概要について
　⑵　第２次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について
○ 協　　議　⑴　第２次鶴岡市総合計画後期基本計画の普及・啓発について
　⑵　総合計画の進行管理と施策の推進について
　⑶　その他

意見概要

第２次鶴岡市総合計画後期基本計画（案）について　資料２

（委員）
・文章に「また」が多い。例えば3頁の「また、郊外には、」とあるが、この「また」は不要と思う。理由は、最初の段落で「本市は」とあり、次の段落で「本市の市街地には」と続き、その次の段落で「郊外には」と続けば良いと思う。
・3頁の下から2行目に「その他にも」とあるが、この「その他にも」を付けると、とって付けたようになり、この「その他にも」は入れない方が良いと思う。
・4頁の⑵の６行目の「また、令和２年初めからの」の「また」は時系列になっているので不要であると思う。
・5頁6行目の「そして」も時系列であれば、入れなくても良いと思う。
・5頁14行目、「こうした中、モルドバ共和国では」では改行しているが、これはロシアのウクライナ侵攻の中の文脈なので、改行しなくても良いと思う。
・6頁の「気候変動などによる災害や感染症の脅威とリスクの高まり」の項目で、最初に「近年」と始まるが、その下の4行目では「また、近年では」と続いており、削除しても良いと思う。

（委員）
・6頁、「気候変動などによる災害や感染症脅威とリスクの高まり」の項目で、気候変動による影響で地震、津波が発生することは関係が無いと思う。関係があるとしたら、もっと長期的に地球温暖化で海水面が上昇して津波による影響範囲が大きくなるとかということもあるかもしれないが、地震、津波はいつ発生してもおかしくない非常に高いリスクの状況下にあるということを表現した方が良いと思う。

（委員）

・KPI の表が複数の頁に渡ることがないようにするなど、見やすさを意識した方が良いと思う。

（委員）

・今後の製本時に更新されると箇所だと思うが、「第１はじめに」ページは、余白を増やすと視認性が上がる。

・「５つの加速化アクション」について、特に「SDGs 未来都市の実現」の KPI は、「健康・医療サービスの充実度」や「普段の生活で幸せを感じる子どもの割合」等とアンケート結果が置かれており、数字の信頼性を持った上で進捗を追跡することが難しい。他のアクションの KPI である「出生率」や「新規就農者数」、「消費額」のように具体的で明確な数値目標も合わせて設定することが望ましい。

（委員）

・文章が硬いというような印象を全体的に受ける。やはり一般の人が正確にしっかり読めるような文章が望ましいと思う。コピーライターに統一して書き直してもらうことは今回難しいとしても、将来的な課題であると思う。

第２次鶴岡市総合計画後期基本計画の普及・啓発について　資料３

総合計画の進行管理と施策の推進について　資料４

（委員）

・第２次総合計画の普及版は、すべて役所が「何々します」とか、「強化します」、とういような感じになっており、市民的には「やってみて」というような感じで捉えてしまう。

・市民の当事者意識を醸成したいのであれば、市民に参画のヒントを与えるような感じがいいと思う。

・第４次静岡市総合計画の取説では、市民に「総合計画とは何ぞや」、というのを問い掛けるような感じで作っているのでご参考いただきたい。読み進めていくと、すごくいいのが、輝くまちというタイトルがあって 2030 年のまちが輝くためにはどうすればいいでしょうかと､市民に４つぐらい問いかけ、呼びかけをしている。「あなたが考える市の“推し”はどんなところですか」と、そんな感じでヒントを与えている。

・ワークショップに参加しましょうみたいな感じではなくて、市民に「あなたの鶴岡の魅力って何ですか」と問いかけるだけで、十分にその参加を促している感じがするので、ご参考いただきたい。

（委員）

・墨田区の概要版を見ても、「何々します、いきます、必要です」という表現になっている。

・まちづくりなら、「まちづくりに関連してこんな補助事業があります。」や、「こういうプロジェクトを市民参加型でやります。又はやっています。」など、そういうところに繋がるものが本当は良いのかもしれないと思った。

（委員）

・良いことばかりではなく、「この先もう人口は減るんです」、「子供もこんなに減るんです」というショッキングなことを前面に見せたら、行政に頼ってばかりでは駄目で、市民一人ひとりがやはり自分事として捉え、参画していきましょうとなるかもしれない。

・ショッキングなことを見せないと、みんな大変だと思わずに、やはり行政に何かをやってもらおうと思

ってしまうので、何かショッキングな数字を見せても良いのではないかと思った。

・今、外国人の方もたくさんいて、みんなが英語圏の方とは限らないと思うが、英語版を考えているのか。概要版も十分に簡単な日本語では書いてあるが、よりわかりやすい日本語版というものも外国人の方向けに検討してはどうか。

（委員）

・市民に対して何かお説教のような感じに受け取られると、またそれは違うだろうということになり難しところかもしれない。何か鶴岡市のことを積極的に考えるきっかけを与えられるようなページなのか、フレーズなのかわからないが、そういうのがあると良いというような意見かと思う。

・英語版については何か考えているか。英語版があれば良いのかという問題もあろうかとは思うが。

→（事務局）まだ考えていなかったが、ちょうど国際化推進プランを別に策定しているところであり、それにあわせて、「やさしい日本語」を使いながらどうわかってもらうかということを、これに限らず色々あるので、そこを国際交流財団の方と詰めていければと思う。

（委員）

・早急に英語版を作るというのは大変かもしれないので、例えば外国人の方で、この計画に対して質問や、もっと詳しく知りたいというような人に対してどうすればいいかを、例えば、国際村にアポイントメントを取り説明の時間を取ってもらえたり、この人が説明しますとか、何かそういうことをご案内するというのも第一歩かもしれない。

（委員）

・子供たちが自分たちが住んでいるまちに愛着を持つというところでも、総合計画を理解してもらい、そこで何ができるかを考えてもらうきっかけにするのはすごくいいと思う。

・自分が普及版を出前講座や授業で扱えと言われたら、あれは授業では使えない。むしろ、PR版は小・中学生や高校生だったら使えると思う。

・例えば、小学校なら地域学習や地域探検をするので、大綱の「地域の振興」のところは必ず載せてもらうとそれぞれの小学校などで地域学習に結びつけて総合計画を学べたり、中学生も地元で職業体験もするだろうし、高校生になれば、QRコードでもう少し探求調査ができるだろう。

・総合計画を学びましょうという出前講座を単発で開催しても、おそらく印象に残らない。もっと学校で普段やっているような地域を学んだり、キャリア形成に結びつけてカリキュラムに組み込めるような使い方ができれば良いと思った。

・出前講座は誰がやるのか、市役所の職員が出向いてやるのか、先生たちにやってもらうのかも含め、少し見通しを持つとともに、私は教材として見ていたので、教材として使えるようなものができれば良いと思った。

（委員）

・PR版をうまく活用することで、誰が主体となってそのワークショップや、出前講座をやるのかということの方が大切ではないかということだと思うが、その点はどうか。概要版はなくていいという選択肢もまだ残されているとは思うが。

→（事務局）基本的にはワークショップは政策企画課で行うと考えている。ただし、全体のファシリテートなどを誰に協力していただくかなどは検討したい。

（委員）

・タブレットなどがあれば、概要版がなくても、その部分をみんなで確認しながら、進めることができそうな気もしてきた。予算の節減にも繋がるかもしれない。

・概要版は、先ほど指摘があったように、「何々します」「必要です」「行う予定です」だけではなく、全体版とは違うもう少し市民参画に繋がるような書き方をすることで有効性を増すことがあるかもしれない。

・ポイントは、概要版を作るのなら市民が参加しやすいような、そういう姿勢や編集のものがいいだろうということ。PR版の活用方法も含めて、ワークショップや出前講座のあり方、進め方を少し詰めていただくと良いと思う。

（委員）

・PR版の全戸配布に関しては、主に紙ベースで市民に見てもらうことを目的としているのか、それとも電子版を基本としているのかを明確にした方がよい。主眼に置く媒体に応じて、PRの方法や見せ方が変わるはず。もし紙媒体での全戸配布のみになる場合、チラシがそのまま捨てられてしまったり、他のチラシと混ざって認識されなくなる恐れがある。例えば、紙媒体での配布に加えて、電子版を市のホームページや公式LINEアカウントを通じてアクセスできるようにすると、特に若者に対する普及効果が期待できると考える。

・また、現状の課題として、「市のホームページから総合計画を確認する際に、多くのステップを踏まなければならない」と言う問題があるが、市のホームページのトップページに総合計画(PR版等)のバナーを掲載し、クリック一つでアクセスできるようにするなど、改善の余地があると考える。

・市民参画や意見反映のためのワークショップについては、開催形式や参加者の募集方法（選定または公募）等は工夫する余地があると考える。特に、参加を希望する人が気づきやすい方法で募集を行うことができれば、意見を述べたい人が集まりやすくなる。例えば、「5つの加速アクション」の「総合的なデジタル化戦略の推進」のKPIにLINE公式アカウントの利用が含まれているため、募集を公式アカウントでも通知し、アンケート回答等もそこからできるようにすると、ワークショップの認知度向上とLINE公式アカウントの活性化につながって一石二鳥となる。

（委員）

・高齢者がいること、高齢化率が上がっていることを考えると、市としては悩ましいと思う。PR版の全戸配布に加え、広報も全戸配布になっているので、広報にも総合計画のことを記事として載せることだと思う。

・両方で重なっていても念入りにアナウンスできるから良いという考え方もあるし、重複するようなことはしないで、PR版を広報に組み込めば良いのではないかという意見もあるかもしれない。

・デジタル化をどんどん進めていくのなら、もう紙は削っていくのも１つの戦略かと思うが、どうか。

→（事務局）高齢者も多くおり悩ましいところだが、今回は両方でいければと思っている。紙で作り、市の広報に織り込もうと思っているが、それもやりつつ、ホームページにも必ず載せておき、もう１つ、公式LINEも使いながら周知と意見募集の活用になろうかと思う。次回ぐらいからは大分紙を減らせると思うが、今回は紙と電子の併用でいければと思っている。

（委員）

・この基本計画というのは、基本的には行政が市民に対して約束をしているものと考えると、市民はどうしても受け身になると思う。社会基盤の委員会でも議論が出たが、市民との合意事項がここに書かれていると思うと、そういうものだというサジェスチョンが少しどこかにあれば、市民も「私は合意してないぞ」とか、ある意味当事者になるのではないかという気がする。憲法は国民との約束事項なのかどうかという議論があるが、それと全く同じで、総合計画とはそもそも何なのかと。

・これはあなた方市民が合意した内容ですよと、それだけきちんとプロセスを踏んで作ってきたものですよと、市は事務局としてもちゃんとまとめましたけど、市民との合意事項と言ってもいいですか、みたいな問いかけがもしあれば、ものすごく本気になるのではないかという気がした。

（委員）

・中学生や高校生などとワークショップをするとき、総合計画とは何かみたいなところからはじめないといけないのでは思う。確かに一般市民が、大人ならわかっているのかというと、必ずしもそうでないと思う。

・受け身であると、これをやると書いてあるのに何でやらないんだ、という話になる。何かそういう前提的なことを、計画書につけるか、計画書本体につけなくても普及啓発版や、PR 版に何らかの記載をつけるかということだが、事務局いかがか。

→（事務局）総合計画とは何か、何のために策定しているかといったことは明確に書きたいと考えている。

（委員）

・このように色々な委員会を作って、何回ぐらい議論を繰り返して、作ったというようなプロセスは、あまり知る機会がないと思うので、その辺も含めて、できる範囲で考えてもらうと良いと思う。

（委員）

・色々な書きぶりがあっても、具体例がないとイメージができないこともあるので、具体例や写真、事例などがどこかに掲載してあるとは私たちも参加できそうだとか、総合計画をちょっと読んでみようとか、自分事になりやすいのではないか。

・出前講座や市民ワークショップもすべて中高生や小学生など子供向けの話題ばかりなので、できれば若者や 50 代向けにもやっていただけると良いのではないか。興味がある人もまだいるし、私が総合計画を読んでみて、何か支援してもらえることに気づけ、行動できる人も増えるのではという印象があった。

・是非、20 代、30 代、60 代くらいまで向けのワークショップもやってもらえると良いと思った。

・出前講座だが、庄内総合支庁だと出前講座リストみたいなものがあるが、鶴岡にもそのような出前講座はあるのか。そういうものがあると、市民団体や小さな任意団体でも、総合計画のワークショップを依頼しやすいと思った。1 回、2 回のワークショップの実施ではなくて、様々な住民のあつまりや団体などからの要望があれば、鶴岡市が説明に来てくれるというような仕組みがあるとありがたいと思った。

（委員）

・先日、新庄市の議員の方とお話をした中で、やはり人口減少に今歯止めがかからない状態ということで、新庄市では今こういうことをやっているという出前講座やワークショップを行っていると聞いている。しかし、実際、就職、県外に出た人たちは戻ってきていないという実態があるそうだ。ただ、やらないよりはやった方がいい。出て行った人も、QR コードやホームページを見れるので、出て行った先で市と

繋がっているというようなお話があった。

・私も出前講座で新社会人向けということで高校３年生に話しに行くが、高校３年生では遅いそうだ。やはり、小・中学校のときから、「鶴岡市は今後こういうふうに変わっていく。みんなで変えていこう」みたいな話をわかりやすくしてもらうとより効果が出てくる。10年後、20年後に帰ってくるかはわからないが、今できる部分として、そういうことを積極的にやってもらえたらと思った。

（委員）

・「総合計画基本計画」の市民巻き込みに関して、市民全員を巻き込むことは容易でなく、特に関心のない方々へのアプローチはハードルが高い。そのため、まずは関心を持つ方々をターゲットとして参加してもらうだけでも、初めの一歩として意味があると考える。

・特に、中高生向けには有志による参加としたうえで、「子ども企画専門委員会」のような場をセッティングして、企画専門委員会と同じようなスタイルで意見を聞く等とすると、自らの意見が行政に聞いてもらえていることを実感できて自尊心が高まり、参加意欲が高まる可能性がある。これにより、総合計画をより自分事として捉えるようになり、今後の積極的な関与につなげることを期待できるかも知れない。

（委員）

・ワークショップ開催に当たり、学校に依頼がくることが結構あるが、学校の側としては、そういう場に出して、発言してくれそうな子や、生徒会とかをやっている子などにどうしてもいきがちだが、そういう子たちだけでは駄目ではないか。

・本来、地域に残り、地域の企業に働いて、ここに住み続ける子は、もしかしたらそういう子たちじゃない方が多い。大学に進学しないで、地元にそのまま就職するなど。

・声かけは、最初はそういう学校にお願いして学校選抜でいいかもしれないが、もう少し先を見据えた上で、どういうターゲット層に届けたいのかを考えて開催した方が、より使えるものになるのではなないかと思った。

（委員）

・どう集めるかが悩ましいことかもしれない。オンラインでやるというのも選択肢の１つなのかもしれない。

（委員）

・高齢者の世代にとってこの総合計画は苦手な分野の１つだろうと感じている。ごく簡単に数ページで目で理解できるようなものは大変有効と思っており、是非作ってもらいたい。

（委員）

・意識が高いとか、そうではないとか、なかなか難しいと思うが、ある程度強制的にやらせることも必要ではないかと思う。

・致道館中学・高校になったときには鶴岡市民じゃない人も入ってくるので。そういう中で、庄内としての１つの方向性も含めて、教育という立場で、アイデンティティ的なことを教えていくような意味合いでこの総合計画を活用すべき。やはり、意識の高い人たちから最初に集めて、その後オファーを広げていくというような感じだ。

・例えば、サイエンスパーク祭りはすごい子供たちがいっぱい親と一緒に来ていた。「すごい」、「楽し

い」と言って、天気が悪いのに、あんなの初めて見たと思うぐらい人も来ていた。そういう場所で、例えば総合計画の何かをやるとか、楽しみながらやれるような仕組みたいなものがあると、何か面白そうだなと参加できると思う。

・自分たちの住んでるまちが誇れるようなところをきちんと子供たちに繋いでいくことが大事だ。評価は第三者がしてくれることだと思うので、自分が興味あるところでやってもらえたら良いと思う。

（委員）

・資料２の９ページの概念図について、ちょうど真ん中あたりに、７つの施策の大綱と７つの未来創造プロジェクトを並列で、レベル感を同じ感じで描いているが、同じということでいいのか。、分野別のいわゆる縦割りな７つの施策の大綱というのが基本にあって、その上に或いは横串を通す感じで分野横断の７つの未来創造プロジェクトがあると思う。これだと、何か14個、トランプのカードのようにに並んでいるように見える。

（委員）

・９ページの、目指す都市像キャッチフレーズの下のポンチ絵について、これはどういうための図なのかというようなタイトルぐらいは少なくとも書かないといけないかもしれないが、その並列記載に関してはどうか。

→（事務局）大綱を横串で指すものがプロジェクトと捉えている。どういう表し方をすればいいか検討し、わかるような図解したいと思う。

鶴岡市デジタル田園都市構想総合戦略について　資料５　資料６

（委員）

・資料6の1頁目の策定の趣旨で、策定し、後期基本計画に位置付けて推進してまいりますと記載があるが、どう位置付けけるのか分からない。

（委員）

・リライト的なことに関しては、今回はプロのコピーライターに頼めないにしても、できるだけ市の総力を挙げて、複数の人で分かりやすく、文章を推敲することをお願いしたい。

（委員）

・前回の資料で、デジタル活用の実装スケジュールというのがあったが、こういう表の方があると分かりやすく、活用していくというイメージを受けたので検討してほしい。

→（事務局）デジタルの活用については、いつからどのように進めていくかということが重要なところであるので、デジタル化戦略有識者会議の中ではそういったところも示しながら有識者の方から評価検証してもらうように努めていく。

以　上